

自己評価報告書(最終報告)

報告者

臨床心理士養成コース/久
米 禎子

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

学部の必修授業である「カウンセリング論」において、教員を目指す学生の「聴く力」、すなわちコミュニケーション能力の向上を図りたい。具体的に①授業内容、および②授業方法としては、「聴く力」の基礎となる、他者の立場に立ち、気持ちを推測することを、具体的な事例を通して学生自身に考えさせたい。そして自己中心的な思考から抜け出して他者の気持ちを配慮すること、人に言われたことをそのまま鵜呑みにするのではなく自分自身で考えることの重要性に気づかせたい。③成績評価は授業で伝えたことをどれだけ自分なりに消化し、自分の言葉で表現できているか、という観点から行う予定である。

2. 点検・評価

目的の点から授業内容、方法、成績評価を見直し、一部改良を加えて実施した結果、ある程度、目的は達成されたと思う。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

教育活動においては、とくに大学院生の個別指導の時間と質を確保することを目指したい。また学生生活支援の面では、学生支援委員会の委員として、学生の抱えるさまざまな問題を解決していくサポートを行いたい。

2. 点検・評価

とくに所属するコースの大学院生に対して、論文指導や面接指導をとおして、学生個々の課題と一緒に取り組んだ。その結果、論文や面接も充実したものになったが、何よりも、学生自身が自分で自分の課題を乗り越え、成長を感じ、自信をつけられたことが大きな成果であったと考える。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

これまで行ってきた臨床実践について論文にまとめ発表したいと考えている。また、箱庭療法の基礎研究をこれまで蓄積したデータをもとにまとめたい。

2. 点検・評価

保育所での実践、本学心理・教育相談室での面接のあり方、および、箱庭療法について、それぞれ論文にまとめた。教育、研究、臨床実践それぞれの成果が一応の形にできたので、これを今後さらに発展させていきたい。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

学生支援委員として、またコースや部の構成員として、大学の運営に寄与したい。

2. 点検・評価

学生支援委員会の委員や部会、コースなどで役割を果たした。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

附属幼稚園および小学校でスクールカウンセリング活動を行う予定である。また、徳島県教育委員会のライフサポーター、スクールプロフェッサー等の活動を通して社会にも貢献したい。

2. 点検・評価

附属幼稚園・小学校のスクールカウンセリングや地域での相談活動など、附属学校や社会との連携をとり、専門的な知見や技術を社会に還元するように努めた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)